



ニッセイ／シュローダー好利回りCBファンド2026-03 (為替ヘッジなし・限定追加型)

中東情勢を受けたCB市場の動向と当ファンドの運用戦略

英国のシュローダーグループより、当ファンドの実質的な運用担当者であるドリアン・キャレル氏が来日しました。本レポートではキャレル氏の中東情勢を踏まえたCB（転換社債）市場の見通しをはじめ、当ファンドのCB運用戦略などについてお伝えいたします。

キャレル氏が伝える3つのポイント

- ① 不透明感の強い市場環境において当ファンドのCB運用は有効な選択肢
- ② 運用チームの平均経験年数は約18年※、保有銘柄のデフォルト実績はゼロ
- ③ 特定の大型株の動きに影響を受けにくいポートフォリオを構築

※ 2025年12月末現在

CB市場の見通しと運用戦略

足元では中東地域の情勢を背景に、株式や債券の日々の市場変動が大きくなっていますが、CB市場をみると株価下落の影響によりCBの利回りが上昇し、投資機会が拡大しております。**過去の不況下やショック時においても、企業は低い資金調達コストで発行可能なCBを利用する傾向にあり、今後もCBの発行増加が想定されます。**

当ファンドにおいては、現時点で中東地域の企業が発行するCBの組み入れ予定はなく、先進国のCBのみの組み入れを想定しております。また、投資機会が広がる一方で、シュローダーでは国・地域、業種、銘柄の分散を図り、リスクを適切に抑制した運用を行っております。CBは償還日に額面金額が投資家へ返還される債券としての特性を有しており、これにより**株式と比較すると値動きが抑えられる傾向があり、安定した運用成果が期待**できます。さらに、当ファンドでは信託期間内（約5年）に償還日を迎えるCBを満期まで持ち切ること金利変動リスクの低減を図り、信託期間終了時点におけるCB価格の変動による基準価額の下振れリスクを抑制します。

このように、**足元のような不透明感の強い市場環境においては、株式と金利の双方のリスクを緩和できる当ファンドの運用が有効な選択肢**であると考えております。



シュローダーグループ
マルチ・アセット・インカムチーム
最高責任者
シニアCBポートフォリオマネージャー
ドリアン・キャレル氏

シュローダーの運用体制

シュローダーの運用体制は、**平均経験年数約18年※**を有する運用プロフェッショナル(ポートフォリオマネジャー、定量アナリスト)で構成されています。2008年3月のチーム発足以降、リーマンショック等の様々な経済危機もありましたが、**これまでに保有銘柄のデフォルト実績はありません。**

※ 2025年12月末現在

シュローダーの運用方針

当ファンドでは、国・地域、業種など十分にリスク分散することで、**米国株式を代表するテクノロジーセクターなど、特定の大型株の動きにも影響を受けにくいポートフォリオを構築**します。最終的に50-70銘柄を厳選し、バランスの取れたポートフォリオで安定した運用成果をめざします。また、緊迫化している中東地域の企業が発行するCBの組み入れ予定はありません。

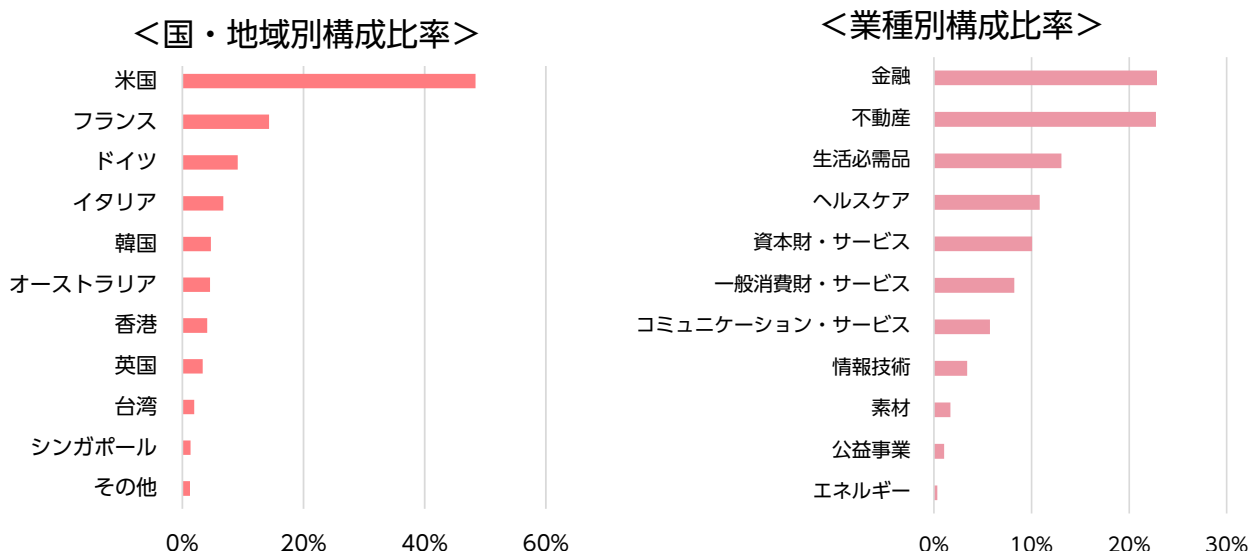
■ 投資銘柄スクリーニング

利回りだけでなく流動性や取引量から銘柄をスクリーニング



■ モデルポートフォリオの状況

国・地域、業種など十分に分散されたモデルポートフォリオ



出所) シュローダーのデータをもとにニッセイアセットマネジメント作成

国・地域はシュローダー・インベストメント・マネジメント株式会社の分類によるものです。業種はGICS（世界産業分類基準）による分類をもとにシュローダー・インベストメント・マネジメント株式会社が分類しています。なお、GICSに関する知的財産所有権はS&PおよびMSCI Inc.に帰属します。

「モデルポートフォリオ」とは、これから運用を開始するファンドのイメージをつかんでいただくための仮のポートフォリオのことです。ファンドの実際のポートフォリオとは異なりますので、あくまでご参考としてお考えください。モデルポートフォリオに関する情報は2026年3月6日時点の市場環境に基づいて作成したものであり、実際の組入銘柄と組入比率は、運用担当者の判断、市況動向、ファンドの資金動向等により変わります。将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。また、特定の銘柄の推奨を意図するものではありません。

<ご参考> 運用管理費用控除後の実質的な最終利回りのイメージ



出所) シュローダーのデータをもとにニッセイアセットマネジメント作成
運用管理費用は投資対象ファンドの運用管理費用を加味した実質的な負担を記載しています。実質的な最終利回りは購入時手数料、その他の費用等および為替水準を考慮していません。

上記は2026年3月6日時点のモデルポートフォリオのデータを示したものです。上記の数値は当ファンドのものではなく、市場環境によって変動します。実質的な最終利回りは、モデルポートフォリオ組入銘柄の最終利回りを組入比率で加重平均した値から運用管理費用を控除したものであり、当ファンドを信託期間終了まで保有した場合の運用利回り示すものではありません。上記は将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありませんので、あくまでご参考としてお考えください。

シュローダーグループのご紹介

シュローダーグループは1804年の創業以来、200年を超える歴史と実績を誇る、英国屈指の独立系資産運用グループです。グローバルな調査体制を活用し、欧州最大級の経験豊富な運用チームが運用を行います。

<シュローダーグループの運用力>

- ① 10年以上一貫した運用戦略を維持し、保有銘柄のデフォルト実績なし
- ② グローバルな株式・債券の調査体制をCB運用に最大限活用
- ③ CB運用残高は約3,161億円（約20.19億米ドル）※で欧州最大級

※2025年12月末時点、1米ドル156.56円で円換算

当ファンドの実質的な運用担当者



マルチ・アセット・インカムチーム最高責任者
シニアCBポートフォリオマネージャー
ドリアン・キャレル 氏

コンサルタント会社でリスク・コンサルタント、投資運用協会にて調査・統計部門責任者を経て、2003年にシュローダー入社。CB運用、アナリスト等を歴任。日本投資家向け好利回りCBファンドを複数運用。シュローダーのマルチアセットチームが策定するマクロ見解に関与。業界年数27年（2025年12月末時点）

ファンドの特色

- ① 日本を含む世界のCB(転換社債)に投資します。
- ② 信託期間を勘案しつつ、相対的に利回りが高いと判断される銘柄に投資します。
- ③ 外貨建資産について、原則として対円での為替ヘッジを行いません。
- ④ 信託期間約5年の限定追加型の投資信託です。

- 購入の申込みは、2026年4月22日までの間に限定して受付けます。

- 資金動向、市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用			
購入時	購入時手数料	購入申込受付日の翌営業日の基準価額（当初申込期間：1口当り1円）に3.3%（税抜3.0%）を上限として販売会社が独自に定める率をかけた額とします。	
換金時	信託財産留保額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額に0.5%をかけた額とします。	
投資者が信託財産で間接的に負担する費用			
毎 日	運用管理費用 (信 託 報 酬)	ファンドの純資産総額に年率0.649%(税抜0.59%)をかけた額とし、ファンドからご負担いただきます。	
		投資対象とする 指定投資信託 証券	・シュローダー先進国好利回りCBファンド2026 - 03 為替ヘッジなし（適格機関投資家専用）→年率0.5005%（税抜0.455%）
			・ニッセイマネーマーケットマザーファンド →ありません。
	実質的な負担	ファンドの純資産総額に年率1.1495%(税抜1.045%)程度をかけた額となります。	
	監 査 費 用	ファンドの純資産総額に年率0.011%(税抜0.01%)をかけた額を上限とし、ファンドからご負担いただきます。	
随 時	その他の費用・ 手数料	組入有価証券の売買委託手数料、信託事務の諸費用および借入金の利息等はファンドからご負担いただきます。これらの費用は運用状況等により変動するため、事前に料率・上限額等を記載することはできません。 また、ファンドが「シュローダー先進国好利回りCBファンド2026-03 為替ヘッジなし(適格機関投資家専用)」を換金する際には、信託財産留保額*をファンドからご負担いただきます。 ※ シュローダー先進国好利回りCBファンド2026-03 為替ヘッジなし(適格機関投資家専用)における換金申込受付日の翌営業日の基準価額に0.5%をかけた額。なお、投資者が実質的に負担する信託財産留保額は、前記「投資者が直接的に負担する費用」に記載の信託財産留保額となります。	

■ 当該費用の合計額、その上限額および計算方法は、運用状況および受益者の保有期間等により異なるため、事前に記載することはできません。

■ 詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

投資リスク

※詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)の内容を十分にお読みください。

基準価額の変動要因

- ファンド(指定投資信託証券を含みます)は、値動きのある有価証券等(外貨建資産には為替変動リスクもあります)に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、投資元本を割込むことがあります。
- ファンドは、預貯金とは異なり、投資元本および利回りの保証はありません。運用成果(損益)はすべて投資者の皆様のものとなりますので、ファンドのリスクを十分にご認識ください。

主な変動要因

CB(転換社債)投資リスク	株価変動リスク	CBの価格は、転換の対象となる株式等の価格変動の影響を受け変動します。 転換の対象となる株式は、国内および国際的な景気、経済、社会情勢の変化等の影響を受け、また業績悪化(倒産に至る場合も含む)等により、価格が下落することがあります。一般に当該株式の価格の下落あるいは株式市場の全体的な価格の下落は、CBの価格の下落要因となることがあります。 なお、CBの価格は、株式に転換する条件である転換価格を基準として、株式の価格が転換価格より高いほど株式の価格変動の影響を受けやすくなる傾向にあります。一方、株式の価格が転換価格より低いほど市場金利変動の影響を受けやすくなる傾向にあります。 CBの発行条件によっては、発行体の裁量により額面相当額の株式で償還される場合があります。額面相当額の株式での償還が発表された場合、CBの価格が下落することがあります。また、株式で償還された場合には、ファンドが当該株式を売却するまでの期間、株式の価格変動の影響を受けることになります。
	金利変動リスク	市場金利は、景気や経済の状況等の影響を受け変動し、それにともないCBの価格も変動します。一般に市場金利が上昇した場合には、CBの価格が下落します。
	信用リスク	CBの発行体が財政難・経営不振、資金繰り悪化等に陥り、CBの利息(クーポンが0%のCBもあります)や償還金をあらかじめ定められた条件で支払うことができなくなる場合(債務不履行)、またはそれが予想される場合、CBの価格が下落することがあります。
為替変動リスク		原則として対円での為替ヘッジを行わないため、外貨建資産については、為替変動の影響を直接的に受けます。一般に円高局面ではファンドの資産価値が減少します。
カントリーリスク		外国の資産に投資するため、各国の政治・経済情勢、外国為替規制、資本規制等による影響を受け、ファンドの資産価値が減少する可能性があります。
流動性リスク		市場規模が小さいまたは取引量が少ない場合、市場実勢から予想される時期または価格で取引が行えず、損失を被る可能性があります。一般にCBの市場は、上場株式市場や国債市場と比較して、市場規模が小さく、取引量も少ないことから、流動性リスクが高い傾向にあります。

❗ 基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

その他の留意点

- ファンドの投資対象に含まれる信用格付の低いCB(信用格付BB格相当以下のCB)は、より高い信用格付を有するCBに比べ、発行体の財務状況や景気動向等により、CBの価格が大きく変動する可能性、また信用リスクの顕在化にともない債務不履行となる可能性が高い傾向にあります。
- ファンドの信託期間内に償還日(満期償還日または繰上償還日)を迎えるCBの償還金等については、ファンドの信託期間内に償還日を迎えるCBに再投資することをめざします。ただし、当該CBは、当初投資したCBに比べ、利回りが低くなる可能性があります。また、資金動向、市場動向等によってはCBへの再投資ができない可能性があり、その場合には、主に残存期間の短い債券や短期金融商品等に投資します。その結果、ファンドの償還日が近づくにつれてファンド全体の利回り水準が低下することがあります。
- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの信託財産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。分配金は、計算期間中に発生した収益(経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益)を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。受益者のファンドの購入価額によっては、支払われる分配金の一部または全部が実質的に元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり小さかった場合も同様です。
- ファンドは、多量の換金の申込みが発生し換金代金を短期間で手当てする必要が生じた場合や組入資産の主たる取引市場において市場環境が急変した場合等には、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引ができないリスク、取引量が限定されるリスク等が顕在します。これらにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性、換金の申込みの受け付けを中止する、また既に受け付けた換金の申込みの受け付けを取消する可能性、換金代金のお支払いが遅延する可能性などがあります。
- ファンドのお取引に関しては、クーリング・オフ(金融商品取引法第37条の6の規定)の適用はありません。

ご留意いただきたい事項

- 投資信託はリスクを含む商品であり、運用実績は市場環境等により変動し、運用成果(損益)はすべて投資者の皆様のもとなります。投資元本および利回りが保証された商品ではありません。
- 当資料はシュローダーの情報をもとにニッセイアセットマネジメントが作成したものです。ご購入に際しては、販売会社よりお渡しする投資信託説明書(交付目論見書)、契約締結前交付書面等(目論見書補完書面を含む)の内容を十分にお読みになり、ご自身でご判断ください。
- 投資信託は保険契約や金融機関の預金ではなく、保険契約者保護機構、預金保険の対象とはなりません。証券会社以外の金融機関で購入された投資信託は、投資者保護基金の支払対象にはなりません。
- 当資料のいかなる内容も将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。また、資金動向、市況動向等によっては方針通りの運用ができない場合があります。
- 当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なしに変更されることがあります。
- 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。

取扱販売会社一覧

※ 販売会社は今後変更となる場合があります。詳しくは、販売会社または委託会社の照会先までお問合せください。

取 扱 販 売 会 社 名	金融商品 取引業者	登録金融 機関	登 録 番 号	日本証券業 協会	一般社団法人 日本投資 顧問業協会	一般社団法人 金融先物 取引業協会	一般社団法人 第二種金融 商品取引業 協会
岩井コスモ証券株式会社	○		近畿財務局長(金商)第15号	○	○	○	
第四北越証券株式会社	○		関東財務局長(金商)第128号	○			
大和証券株式会社	○		関東財務局長(金商)第108号	○	○	○	○
三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社	○		関東財務局長(金商)第2336号	○	○	○	○
めぶき証券株式会社	○		関東財務局長(金商)第1771号	○			
株式会社三十三銀行		○	東海財務局長(登金)第16号	○			
株式会社三菱UFJ銀行		○	関東財務局長(登金)第5号	○		○	○
株式会社三菱UFJ銀行 (委託金融 商品取引業者 三菱UFJモルガン・ スタンレー証券株式会社)		○	関東財務局長(登金)第5号	○		○	○

委託会社【ファンドの運用の指図を行います】	ファンドに関するお問合せ先
ニッセイアセットマネジメント株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第369号 加入協会：一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会	ニッセイアセットマネジメント株式会社 コールセンター：0120-762-506 (9:00～17:00 土日祝日・年末年始を除く) ホームページ： https://www.nam.co.jp/
受託会社【ファンドの財産の保管および管理を行います】	
三菱UFJ信託銀行株式会社	